

[別紙④]

(1) 授業の流れ

① あずささんのことばの中で、気になることばは？

- ・ 「彼氏」とか、「気になる男子」とかは、女の子が男の子を好きになるのが当たり前という前提で言っている。
- ・ 「女の子なんやから」とか「男っばい」は、のぞみさんが女らしくいることを強制してる感じ。

② だまってしまったとき、のぞみさんはどんなことを考えていたか？

個人で考える



班で話し合う



全体で交流する



- ・ 何て返したらいいのかわからない。
- ・ なんでそんなこと言うの。「女らしさ」って大切？
- ・ 自分らしく、好きな物を選んだらダメなの？
- ・ 自分がおかしいのかな。
- ・ どうやって悩みを打ち明けよう。
- ・ これから、だれに相談したらいいのかな…。

③ あずささんのことばを、のぞみさんが受け入れやすいことばに変えてみよう。

話し合いの様子1



話し合いの様子2



ピラミッドチャート

- △ 「彼氏おるん」「気になる男子おらんの」
→ ○ 「気になる友だち」「好きな人」「付き合ってる人」
- △ 「女の子なんやから、かわいい服着たらええのに」
→ ○ 「のぞみってどういう服好きなん」
- △ 「でも、その服は男っばいやん」
→ ○ 「その服、センスがいいね。のぞみによく似合ってるよ」
→ ○ 「人には好みがあるから、優月の服もいいけど、その服もいいと思うよ」
→ ○ そもそも、服装のことを言わない。見た目のことや、そういう話をしない。

班ごとに「ピラミッドチャート」を使い、より良い意見を選ぶために話し合いを深めた。

④ 大学生の「そうしさん」はどうやってカミングアウトし、周りはどう受け止めたのだろうか。

動画「そうしさん」を鑑賞1



動画「そうしさん」を鑑賞2

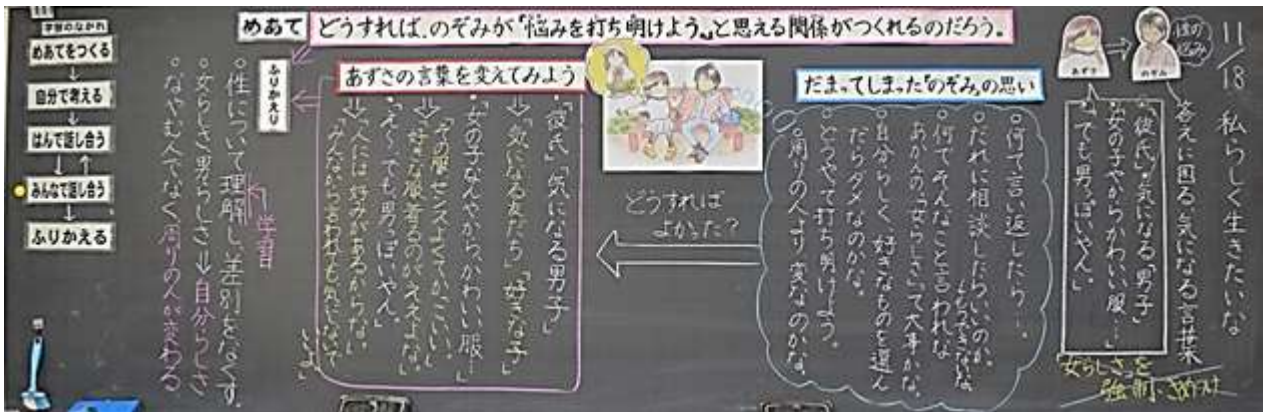


高学年のころから、「同性を好きになる自分は周りと違うのかな。」と悩み始めたそうしさん。小中学校では笑ってごまかしていたけど、高校生で友だちに打ち明ける。すると、友だちは、「そうしはそうしだからいいんじゃない。」と返した。

⑤ 今日の学習をふり返ろう。

- ・ ぼくは、のぞみがしたいことをやったらいいと思う。人には個性っていうのががあるから、もし人に言われても気にせんほうがええと思う。のぞみだけが思っていることじゃなくて、同じことを思う人は世界中にいっぱいいる。自分は自分らしくしたらいい。
- ・ 私がこの学習をする前は、あずさと同じ考えだったけど、今は違います。悩んでいる人の気持ちも考えて会話することが大切だと思いました。友だちの良さや好きなことを理解することも大切だと思いました。何よりも大切なのは、周りの人が変わることです。
- ・ 女らしさや男らしさが大切なんじゃなくて、自分らしさがいちばん大切なんだなと思いました。だから、私も、女や男だからと決めつけずに、過ごしていきたいです。
- ・ 今までは、結婚とかは男の人と女の人とするものだと思っていただけ、今日の授業で、多様な性のあり方があるんだと知りました。
- ・ 悩みを打ち明けるには、のぞみさんのように性で悩んでいる人だけががんばるのではなく、あずささんのような立場の人が相手のことを考えた言動ができるよう、周りの人が変わることが大切だと思いました。
- ・ 5年生のときにした学習でも分かっていたけど、今日の授業で、悩んでいる人ではなくて周りの人が変わらないといけないことが分かりました。自分らしく生きるのに大切なのは、周りの人が変わることだと思いました。
- ・ 妹も、髪が短かったり、のぞみさんみたいな服だったりします。そのとき、「もうちょっとかわいい服装着たらいいのに」と言ってしまいます。この話を知って、妹もいやな気持ちになっているのかなと思いました。自分もそういうことをしているのだからと思いました。これからは、喜ぶ声をかけたいです。

(2) 板書



(3) 授業を終えて

性についての悩みは、誰もが経験する可能性がある。そして、性のあり方が多様であるように、その悩みも多様である。今回は、「からだの性とこころの性が一致しない」という悩みを基に、中学生の友だちが会話をする場面を設定した。悩む人にとって、「彼氏・気になる男子」「女の子なんやからかわいい服装着たらいい」「その服、男っぽい」などのことばは、返答に困るものである。また、「自分がおかしいのかな」と感じさせてしまうこともあるだろう。授業では、これらの「ことばへの気付き」から、悩む主人公の立場で物事を考え、「どうすれば悩みを打ち明ける関係が作れるのか」を考えていった。Like myselfの前田さんに、資料の中の会話や、授業での発問についてアドバイスをいただいた。実際にあった相談内容を基に、日常生活の中で使われがちなセリフを提供してくださったので、子どもたちにとって、実生活に近い資料を作ることができた。また、発問では、当初考えていた「あずさのことばを直そう。」ではなく、「あずさのことばを変えよう。」と言い換えた。それは、「このことばを使ってはいけない。」と意識付けるのではなく、「どんな言葉を使えば、相手の思いを尊重できるのか。」を考えさせたかったからである。子どもたちは、相手の立場に立って、互いの思いを大切に、真剣に話し合っていた。話合いで使った「思考ツール（ピラミッドチャート）」は、友だちと自分の意見を比べ高め合うのに必要だったと思う。ただ、「ことばを変える」という課題だったため、「友だちの見た目に対して何も言わない」という相手を思いやった意見が下位層に行ってしまう、取り上げることができなかった。この意見の良さに気付けるよう、指導者として人権感覚を磨きたい。そして、多様な考えも認め合い発言できる雰囲気づくりに、これからも努めたい。

子どもたちのふり返りには、きょうだいに対しての自分の発言をふり返ったものなど、「自分の生活に置き換えた感想」や、「悩んでいるではなく周りの人が変わることが大切」という気付きがあり、深い学びができたと感じる。同和・いじめ問題など、他の人権課題解消に向けた学習でも、この考え方を生かしていきたい。